中間支援活動助成(基本)事業　実績報告

団体名	㈱認定㈱ しみん基金･こうべ	代表者名	(職名)　(氏名) 理事長　戎　正晴
事業名	寄付文化醸成による共助の資金循環をつくる助成事業		

＜事業実施実績＞

	①相談業務 延べ回数/団体数	②ﾈｯﾄﾜｰｸの構築 ・情報提供 件数	③人材育成 （講座開設等） 延べ参加人数/回数	④書類作成指導 件数	⑤その他 ㈱調査研究等㈱ 件数
R５実績	11回/11件	25962回 ㈱非営利グーグル広告含む㈱	25団体･64名/3回	18件	0件
R６計画	5回/5件	8000回 ㈱非営利グーグル広告含む㈱	40人/2回	―	0件
R６実績	2回/2件	8385回 ㈱非営利グーグル広告含む㈱	82人/3回	5件	0件

＜効果と成果＞

能登半島地震直後における災害ボランティアを管理しようとする行政の対応には大いに疑問が残る。
30年前のあの時、2ヶ月で100万人を超えるボランティアの方々が手弁当で阪神・淡路の被災地に駆けつけ、素人ながらそれぞれが知恵を絞り、被災者への支援を行った。

以降も頻発する災害に対し、私たちは不十分ながらも30年前の被災地域の市民として、さまざまな分野で、体験を活かした支援を多彩に行ってきた。

しかしながら、令和6年能登半島地震の災害対応に、30年の間に行われて来た災害支援の経験が活かされない現実を目の当たりにした時、憤りの気持ちと共に、当団体が行ってきた助成事業に間違いが無かったのかという疑問を持つに至り、通常の事業助成を急遽取りやめ、この30年に培われた教訓、そこからの知見に触発された解決につながるアイデア（提案・提言）を、次なる災害（能登半島地震も含む）に活かすための「阪神・淡路大震災30年　課題解決アイデアを募集するプロジェクト」として顕彰事業に変更した。

かなりテーマを絞り、個人からの応募も可能とした。全く応募がないかと危惧したが23件の応募があり6件を入賞、1件を特別賞に選ぶことができた。

＜今後の展望＞

初めての取り組みに試行錯誤しながら実施し、まだ事業途中の状態。3月以降、ワークショップを実施し入賞提案・提言のブラッシュアップを経て冊子化する予定。

例年とは全く違う事業となり、これまで申請してきたことのなかった新たな申請者からの応募があるなどの成果もあった一方、通常助成申請を計画していた団体への助成支援はできなかった。

来年度以降どのように進めていくのかはまだ検討中である。

＜収支決算書＞

（収入）

項　　目	金　額（円）
中間支援活動助成金	４００,０００
自己資金等	７０,９４１
合　計	４７０,９４１

（支出）

区分	項　　目	金　額（円）	左のうち 助成対象金額（円）
直接経費	スタッフ人件費	２８７,６５０	２３２,０３９
	通信運搬費	６３,８０８	６３,８０８
	印刷費	２９,６８８	２９,６８８
	その他（ボランティア活動費等）	７７,４４５	７４,４６５
	小 計	４５８,５９１	４００,０００
間接経費（一般管理費）		１２,３５０	０
合　計		４７０,９４１	４００,０００